

阪急×阪神×東急が協働 ラッピング列車「SDGs ト레인2020」を9月8日（火）より運行します！ ～再生可能エネルギー100%の列車で、SDGs の達成に向け多様なメッセージを発信～

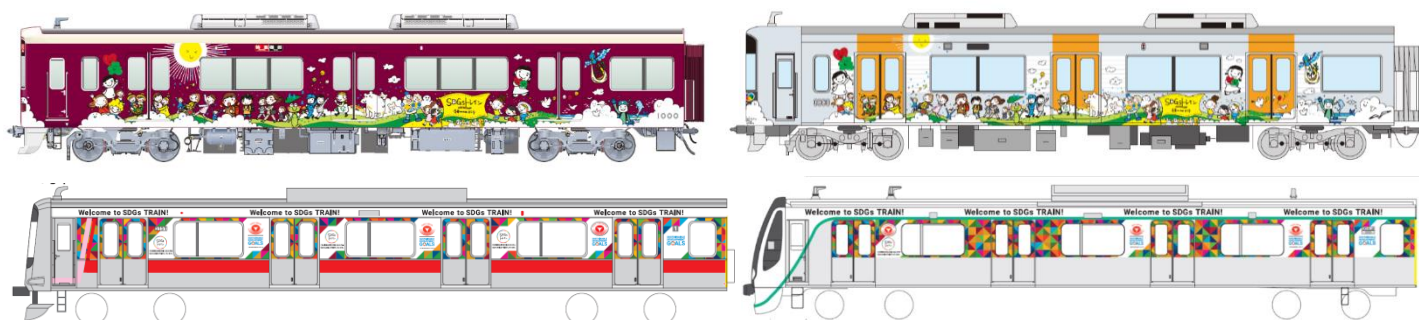
阪急阪神ホールディングス株式会社と東急グループは、SDGs（※）の達成に向け多様なメッセージを発信するラッピング列車「SDGs ト레인2020」を、国や自治体・企業・市民団体等と連携して、9月8日（火）から同時に運行します。この列車は、阪急電鉄・阪神電気鉄道・東急電鉄の最新の省エネ車両を使用するとともに、走行にかかる電力をすべて（実質的に100%）再生可能エネルギーで賄います。

阪急阪神ホールディングスグループでは、本年5月に、「阪急阪神ホールディングスグループ サステナビリティ宣言」を発表し、持続可能な社会の実現に向け、SDGs への取組を進めています。また、従来から取り組んできたグループの社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」の10周年を機に、昨年5月からSDGs ト레인「未来のゆめ・まち号」を運行しています。

一方、東急グループでは、「美しい時代へ」というスローガンのもと、鉄道事業を基盤とした「持続的なまちづくり」を通じて、社会課題の解決と事業成長の両立に取り組むとともに、「公益財団法人東急財団」をはじめとするさまざまな社会貢献活動を行っています。そうした中、今般、上記のSDGs ト레인の取組に東急グループが新たに加わり、ラッピング列車「美しい時代へ号」の運行を開始します。

阪急・阪神・東急が、共通テーマを掲げたラッピング列車「SDGs ト레인2020」を東西で協働運行することにより、SDGs の認知度向上を図るとともに、SDGs の達成に向けた取組を広く社会に普及させ、これにより持続可能な未来を創造していくきっかけになればと考えています。

「SDGs ト레인2020」の概要は次ページ以降のとおりです。



「SDGs ト레인2020」のイメージ

（上：阪急電鉄／阪神電車「未来のゆめ・まち号」

下：東急電鉄「美しい時代へ号」

（※）SDGs：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟国が2030年までに地球規模の17の社会課題の解決を達成することを目標に掲げている。

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

4. 主催者等

主 催：阪急阪神ホールディングス株式会社、東急株式会社（東急グループ）

共 催：阪急電鉄株式会社、阪神電気鉄道株式会社、東急電鉄株式会社

企画監修：一般社団法人SDG s 市民社会ネットワーク

SDG s の達成のために、NGO・NPO、企業など約130団体が参加し、政策提言のほか、SDG s の普及啓発や情報発信、様々な団体との連携の強化を行っているネットワーク団体です。共同代表理事の三輪敦子氏は、日本政府のSDG s 推進本部のSDG s 推進円卓会議に市民社会からの有識者委員として参加しています。

協 賛：花王株式会社、関西電力株式会社、株式会社クボタ、

サントリーホールディングス株式会社、積水ハウス株式会社、

株式会社大和証券グループ本社、凸版印刷株式会社、

パナソニック株式会社（50音順）

後 援：外務省、環境省、国連広報センター

協 力：関西SDG s プラットフォーム、JICA関西、

社会福祉法人大阪ボランティア協会、公益社団法人日本フィランソロピー協会、

一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、

特定非営利活動法人市民社会創造ファンド、

京都府、京都市、大阪府、大阪市、神戸市、横浜市、川崎市、渋谷区、世田谷区

以 上

【添付資料1】・阪急電鉄・阪神電車：SDG s トレイン『未来のゆめ・まち号』について

・阪急阪神ホールディングスグループのSDG s に関する取組活動例

【添付資料2】・東急グループ：SDG s トレイン「美しい時代へ号」について

・東急グループのSDG s に関する取組活動例

阪急電鉄・阪神電車：SDGsトレイン『未来のゆめ・まち号』について

1. 名 称

SDGsトレイン『未来のゆめ・まち号』

※グループの社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」について

グループの重要な事業基盤である沿線の「まち」の魅力を高め、未来の地域社会を担う次世代の「ゆめ」を育てることにより、「未来にわたり住みたいまち」をつくることを目指して取り組んでいる、グループの社会貢献活動です。100年以上の長きにわたり、阪急阪神沿線を中心とした地域社会に育まれ、信頼関係を築いてきた阪急阪神ホールディングスグループが、これからの100年もこの地域社会の一員として歩んでいくために、2009年4月より活動を開始しました。グループ各社・沿線の市民団体・従業員と協働して、年間100件を超える活動を行っています。

2. 運行車両

最新の省エネ車両を使用するとともに、関西電力の「再エネECOプラン」(※1)を活用することにより、実質的に再生可能エネルギー100%で同トレインを運行します。

(※1) 関西電力が日本卸電力取引所より調達した、太陽光・水力・風力発電などに由来する環境価値を付加した電気を使用するプランのことです。このプランを利用することにより、実質的に再生可能エネルギーによる電力として取り扱うことができます。

<阪 急 電 鉄> 神戸線・宝塚線1000系、京都線1300系車両 各1編成(8両編成)

※1000系・1300系車両は、高効率のVVVFインバータ制御装置、モーターのほか、前照灯を含むすべての照明機器にLED照明を採用。従来型(5000系、6000系などの電力回生ブレーキ非搭載車)よりも約50%、前形式(9000系)と比べても約20%の消費電力削減を実現するとともに、低騒音の全閉式モーターや駆動装置、側窓にUVカット複層ガラスを採用することにより、車内外の騒音を低減させています。

<阪 神 電 車> 阪神1000系車両 1編成(6両編成)

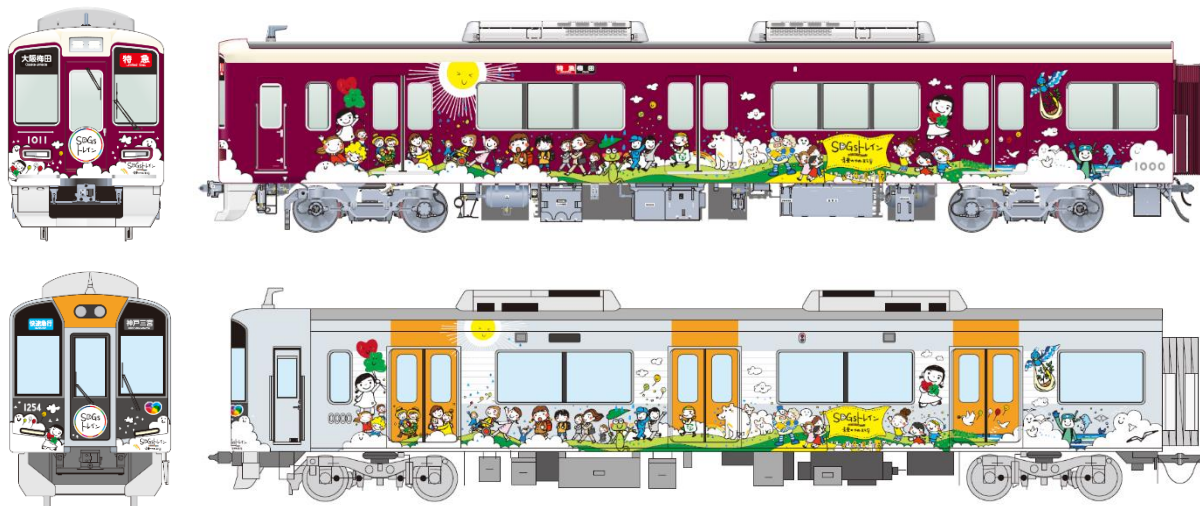
※1000系車両は、高効率のVVVFインバータ制御装置、ブレーキ装置には停止直前まで電力回生ブレーキが作用する純電気ブレーキを採用。照明機器、行先・種別表示器、車内案内表示器をすべてLED化するとともに、車体をステンレス製として軽量化を図り、また外板を無塗装とすることで環境に配慮しています。

3. 車両のデザイン・特徴

●先頭・最後尾車両(上：阪急電鉄 下：阪神電車)

SDGsの目標をイメージするさまざまな人や生き物たちが、より良い地域・社会を願いながら、未来へ向かってパレードをしていく様子を、「ゆめ・まちプロジェクト」のシンボルマークを描くウマカケバクミコ氏(※2)のイラストでデザインしました。SDGsの17の目標を親しみやすく表現しています。

(※2) 大阪府出身のイラストレーター。キャラクター・広告・出版・Webなどのイラストを幅広く制作。ゆめ・まちプロジェクトの立ち上げ時から、シンボルマークをはじめイラスト全般を担当いただいています。



●中間車両

側面の各ドアの横に、SDG s の全体ロゴおよび1～17の目標のステッカー（計18種）と再生可能エネルギー100%で運行していることを示すステッカーを掲出します。



●車両内

つり革に、SDG s が掲げる各目標の解説をするステッカーを掲出します。

表面

裏面



阪急阪神ホールディングスグループのSDG s に関する取組活動例

◆阪急西宮ガーデンズにおける環境施策 (阪急電鉄)	
スカイガーデンなどの屋上緑化や壁面緑化を積極的に採用し、ヒートアイランド現象の軽減に努めています。また、太陽光発電パネルや風力発電機の設置、雨水の散水への利用など、自然エネルギーの活用も図っています。このほか、高効率ターボ冷凍機・氷蓄熱システム・ガスコージェネレーションシステムの採用、LED 照明の採用や自然光を取り入れる設計等により省エネルギー化を図っています。	
◆阪神甲子園球場の太陽光発電 (阪神電気鉄道)	
阪神甲子園球場では、内野席全体を覆う屋根「銀傘」上に太陽光発電設備を設置し、2010年3月から稼働しています。推定年間発電電力量は約193,000kWhで、これは阪神タイガースが甲子園球場で行うナイトゲーム（年間）で使用するナイター照明の電力量に相当し、火力発電に比べて、CO2排出量を年間で約150トン削減することが可能です。	
◆1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY (阪神電気鉄道、阪急電鉄)	
ビルの照明やネオンを消灯し、まちにキャンドルの明かりを灯すイベントを地域企業と協力して西梅田・茶屋町でそれぞれ開催。環境や普段の暮らしを見つめ直すきっかけとなることを目指しています。	
◆阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊 (阪急阪神ホールディングスグループ各社)	
都市交通・ホテル・エンタテインメント等、グループのさまざまな仕事や施設でのチャレンジを体験できる、小学生向けの学習プログラムを毎年夏休みに開催。まちの未来を担う子ども達の健やかな成長を応援します。	
◆「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」や「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」による市民団体との協働 (阪急阪神ホールディングス、「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」の助成先市民団体)	
グループ従業員の募金をもとに、会社が同額を上乗せして、阪急阪神沿線の市民団体を助成しています。また、「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」では、阪急西宮ガーデンズ内の「スタジモにしのみや」や駅を中心に、お客様参加型のワークショップや展示等のイベントを開催。地域のみなさまと共に、より良いまちづくりへの機運を高めています。	

東急グループ：SDGsトレイン「美しい時代へ号」について

1. 名 称

SDGsトレイン『美しい時代へ号』

※グループスローガン「美しい時代へー東急グループ」について

「美しさ」それは東急グループの、次の時代に向けた道しるべであり、価値基準です。我々が求める「美しさ」とは、人、社会、自然が調和した中で、国を超え時代を超え、一人ひとりの心に深い感動を呼び起こすありようのことです。東急グループは、洗練され、質が高く、健康的で、人の心を打つ「美しい生活環境の創造」を自らの事業目的とし、その実現に全力で取り組みます。そして優しさと思いやりにあふれた「調和ある社会」の中で、一人ひとりが自分らしく生き、幸せを実感できるよう、お役に立ちたいと考えます。「美しい時代へ」には、我々東急グループが、自ら美しくあり続ける覚悟と、美しい生活環境を創る先駆者になる決意が込められています。

2. 運行車両

東横線・田園都市線では省エネ車両を使用するとともに、東急線内では実質的に再生可能エネルギー由来の電力（※1）で電車を運行します。

（※1）東横線、田園都市線については東急パワーサプライによるJクレジットを利用したカーボン・オフセット、世田谷線については東北電力および同社グループ企業の東北自然エネルギー株式会社が保有する水力発電所および地熱発電所の電気に当該発電所由来の非化石価値を付加したCO₂フリー電力を活用します。

＜東横線＞ 5050系4000番台 1編成（8両編成）

5050系車両は、「人と環境に優しい車両」をコンセプトとして登場しました。車体の軽量化により走行時の騒音を低減するとともに、使用電力量を旧型車両（8500系）と比べ約40%削減しています。2015年度からは車内照明のLED化を進め、さらなる消費電力の削減を図りました。また、熱線吸収・紫外線カット窓ガラスの採用、冷房効率のアップなど、お客さまに快適にご利用いただけるよう配慮しています。当社の車両では初めて、停車駅や乗換案内を表示する液晶ディスプレイをドア上に設置し、お客さまの利便性向上に努めています。

＜田園都市線＞ 2020系 1編成（10両編成）

2020系車両は、環境面への配慮として、低騒音型駆動装置やWN継手の採用により沿線環境・車外騒音を旧型車両（8500系）と比べ約10db低減したほか、次世代半導体素子を用いたVVVFインバータ制御装置による主電動機の高効率駆動や、車内の全照明と前照灯・尾灯へのLED灯の採用と合わせ、旧型車両よりも約50%の使用電力を削減しています。また、車内には「ナノイー（※2）」方式の空気清浄機を設置し、座席はハイバック仕様を採用して快適性の向上を図りました。液晶ディスプレイはドア上に加えて座席上にも配置し、多言語案内の充実化を図るとともにニュースや天気予報など充実した情報サービスを提供しています。

（※2）「ナノイー」はパナソニック株式会社の商標です。

＜世田谷線＞ 300系 1編成（2両編成）

3. 車両のデザイン・特徴（上：東横線 下：田園都市線）

SDGsの「理念」と、長年にわたって東急グループが心を尽くして取り組んできた「活動」を紹介した、展覧会のような車両です。車両を包むラッピングは、その展覧会への扉と考え、SDGsを象徴する17のゴールのカラーを使ってキラキラと光が反射するようなモザイク模様をデザインしました。SDGsトレインが、乗客のみなさまとともに美しい未来へ走っていきますようにという願いを込めています。



東急グループのSDGsに関する取組活動例

<p>◆東急財団による社会貢献活動</p>	
<p>公益財団法人東急財団は、2019年4月、「とうきゅう環境財団」「とうきゅう留学生奨学財団」「五島記念文化財団」を合併して誕生しました。旧3財団の設立時の想いを大切に引き継ぎ、豊かな社会の実現を目指しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境部門：多摩川および流域の環境保全に関する調査研究への助成や広報活動、小学校への環境副読本の配布など ・国際交流部門：日本の大学院で学ぶアジア・太平洋地域からの留学生に対する修学・研究活動への資金援助など ・文化芸術部門：オペラ・美術分野の有能な新人への顕彰と海外での研鑽助成、オペラ公演への助成など 	
<p>◆とうきゅうキッズプログラム (東急グループ各社)</p>	
<p>小学生を対象に、親子で一緒に職業体験や施設見学、ものづくりなどのプログラムにチャレンジする体験型のイベントを開催。電車の運転や修理体験、バス営業所の見学、ブライダルアテンダント体験など、さまざまなプログラムを通じて社会体験をすることで好奇心旺盛なこどもたちの成長を応援しています。</p>	
<p>◆東急会による地域貢献活動 (東急グループ各社)</p>	
<p>国内外の多くの地域でグループ各社がさまざまな事業を展開しているなかで生まれたのが、各地域で企業活動をしている各社からなる東急会です。現在、国内23地区と海外4地区において、音楽、文化、スポーツなどのイベントを通じた地域の皆さまとのコミュニケーション活動や清掃ボランティアなどの地域貢献活動を幅広くおこなっています。</p>	
<p>◆事業活動における取組 (二子玉川ライズ、南町田グランベリーパーク、世田谷線など)</p>	
<p>自然と共生するまち（二子玉川）や多世代が集えるまち（南町田）など、行政やNPOといった団体と連携した持続可能なまちづくりを推進しているほか、世田谷線では水力および地熱のみで発電した再生可能エネルギー100%の電力による運行をおこなっています。</p>	

以上